

宇宙開発戦略本部長である麻生太郎総理大臣から挨拶が行われた。【議事1】

事務局より、資料 1「宇宙基本計画の基本的な方向性について(案)」【議事2】、及び資料 2「平成21年度における宇宙開発利用に関する施策について(案)」【議事3】について説明が行われ、資料1については了承、資料2については本部決定が行われた。

その他、主な発言は以下のとおり。

石破農林水産大臣より、宇宙開発利用について、何が可能か、各省にどのようなニーズがあるか、日本としてどこまでの機能を有するのか¹議論が必要である旨発言あり。

二階経済産業大臣より、宇宙産業を強化していくことは重要であり、来年度予算においても宇宙産業政策を強化²していきたい旨発言あり。

¹ 議事録が「要旨」として簡略化されているので、ご発言の真意を掴めないが、例えば「宇宙有人活動にはどの程度力を入れるのか」と云う事を考えていらっしゃる様に推測する。此処でのご発言の「何処迄」は極めて重要で、宇宙先進諸国との相対関係で決まるものである。離れ過ぎると国家安全保障の役に立たず、追いつき追い越そうとなると費用が極端に増大する。「遠き慮り」ある議論をお願いしたい。

² 二つは別の事だと思うが、経産大臣であるがために、此の様な発言にならざるを得ないのだろう。宇宙予算は国家安全保障を配慮して決まり、其中で産業振興に努めるのだろう。

塩谷文部科学大臣より、来年度予算は、基本法元年として重要なものと認識しており、開発と利用を連携させ、国民生活の向上に貢献する必要がある³旨発言あり。

河村官房長官より、各府省庁において予算の確保に努めて頂くよう⁴発言あり。また、安全保障分野での取り組みは重要であり、情報収集衛星の体制を確実に構築⁵するとともに、情報収集機能の拡充・強化が必要である旨発言あり。

浜田防衛大臣より、基本計画の策定に向けて防衛省も積極的

³ 文科省は今迄の宇宙活動に必要な技術開発を以て国に貢献して来た。先ず其の事を明確に宣言してから、「此の成果を実利用に広め、国民生活の向上に貢献する具体的な結果を出せるよう、各省庁の協力(各省週間業務での宇宙実用プロジェクトの推進)をお願いしたい。」と発言なさるのが適当ではないか。後者が有ればある程好ましいのではあるが、其れを目的として宇宙活動を行なって来たのではない。国家安全保障上の理由から、宇宙活動に多大な資金を投入する事が許され、長い間技術開発を重ねて来たのではないだろうか。

⁴ 此れでは「宇宙関係予算をもっと多くする事が正当である。」と発言なさった事になる。適正な宇宙関係予算額はどう在るべきかの議論は必要だが、威勢だけが良いご発言であつたら困る。

⁵ 防衛省が宇宙活動に加わる様になった事は大きな前進であり、情報収集と抗堪性のある通信網は防衛省の宇宙利用の重要課題であるが、其れが其の儘「国家安全保障の要諦」として考えて頂いては困る。「遠き慮り」を持って、将来我が国を支えてくれる技術課題を考え、其れを維持発展させて行く政策を打ち出す事、其れが国家安全保障の要諦ではないか。

に取り組んでいきたい旨発言⁶あり。また、基本的な方向性に沿って安全保障分野における新たな宇宙開発利用を推進するため、関係省庁と連携して検討していく⁷旨発言あり。

金子国土交通大臣より、気象衛星ひまわりについては、その後継機を着実に整備していく必要がある⁸旨発言あり。

(以上)

⁶ 防衛大臣のご発言を此処まで要約してしまうと、「積極的取組」の内容を推定する事が出来ない。「基本計画の策定に向けて」と云う事から想像すると、「基本法」を「基本計画」に具体化する段階の議論を照準に捉えている様だから、長期的に見て是非とも保有する必要の有る技術をお考えなのかも知れない。そうであったら良いのであるが、宇宙活動に防衛省が関与できるように政策を変えたばかりであるから、左程大胆に参画するのは難しいだろう。

⁷ 「宇宙開発利用」の用語が成句になってしまった現在、「開発」と「利用」のどちらを意識した発言なのか識別できなくなった。「利用」だけを意識なさせて此の発言を為さったのであれば、防衛省の貢献は余り期待できない事になる。主に「開発」を意識なさせてのご発言であれば、当に頼もしい限りである。

国家安全保障上の重要事項になるだろう宇宙活動の項目は、今余り明確になっているとは言えないだろう。情報収集や抗堪性のある通信網に於いて、宇宙活動は有効な選択肢の一つではある。しかし宇宙利用が唯一の手段とは言えない。地上システムも選択肢に含まれる。一方、宇宙発電衛星と火星移民は宇宙活動でしか得られないものであるが、何時頃になったら不可欠なものになるのかが読めない。但し、此の関連の技術については絶え間ない前進が必須であると共に、急ぎ過ぎて消耗してしまったり元も子もない事に留意する必要がある。此れこそ国家安全保障の専門家のご意見が不可欠な処だろうと思う。

⁸ 気象予報には気象衛星の観測データが不可欠になっている現在、「ひまわり」の後継機は重大な関心事だろう。観測の空白を作る事は避けなければならない。但し、今後に向けて単に後継機を考えるだけでは不十分だろう。今は静止軌道を使っているが、準天頂軌道や低周回軌道の可能性、ミッション機器の相乗りに依る他省庁との協働や他国の気象観測機関との協働を検討し、より高いサービスをより安いコストで実現する努力が必要だと考える。宇宙利用のパートナーは少しずつではあるが確実に増えていると思う。